

学校法人 福岡成蹊学園 福岡外語専門学校 2024 年度 自己評価表

	評価項目	評価（昨年度） ④適切 ③ほぼ適切 ②やや不適切 ①不適切	課 題	今後の改善方策	特記事項
教育目標 教育理念・	① 教育理念・教育目標が、毎年確認され職員に浸透しているか。	4(4)	教育目標の浸透を図るべく、毎週の朝礼で唱和している。また、新入教職員オリエンテーションでの必須伝達事項とし、新しいメンバーへの展開も図っている。	より高次元での教育目標の達成を実現すべく、各学科におけるカリキュラムポリシーの見直しを必要に応じて実施したい。	
	② 教育理念・教育目標は、社会のニーズに合っているか。	4(4)	日本社会においては昨今人材不足、ダイバーシティへの対応が強く求められている。当校の教育目標「いつでもどこでもだれとでも働くことのできる人材の育成」は的確に社会のニーズをとらえているといえる。	企業との連携をより強固なものとし、社会へのアンテナを張り続け、臨機応変に対応できる体制を構築したい。	
学校運営	① 学校の教育目標に沿った運営方針・事業計画を策定し、運営組織や意思決定機能は規則等において明確化されているか。	4(4)	運営方針「学生よし職員よし学校よし」に基づき、毎年度の事業計画を立案している。意思決定は理事会・評議員会・MGR 会議・運営会議・学科分科会において段階的に行われており、組織的に機能している。	ブランドコンセプト・教育目標に沿った中長期事業計画の策定を進める必要がある。	
	② 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	4(4)	ホームページ上の「情報公開」にて開示している。年度ごとの更新も的確に実施できている。また、ホームページやその他 SNS において定期的にニュースとして学校内の出来事や教育活動を公開している。	より多くの国の人たちに当校に活動をより分かりやすく伝える工夫と努力を継続的に進める。	
	③ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか。また、オンライン授業等への対応は進んでいるか。	3(4)	校務管理システム S-wing の運用は安定してきたが、まだ本来の機能を十分使い切れていない。また、Chat-GPT による業務効率化推進を図るもまだ十分展開には至っていない。 オンライン授業の運用はコロナ期間中のみ。現在は対面授業を優先している。	まず、職員の IT リテラシー向上のために IT パスポートテキストを全員に配布したが、次のステップに進むための仕掛けを立案実行する。	

学校法人 福岡成蹊学園 福岡外語専門学校 2024 年度 自己評価表

	評価項目	評価 (昨年度) ④適切 ③ほぼ適切 ②やや不適切 ①不適切	課 題	今後の改善方策	特記事項
教育活動	① 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	3(3)	シラバスに基づく到達レベルや学習時間は明確になっている。それは業界ニーズを強く意識したものとなっている。	【英語科】 学生の英語力に応じたクラス編成を細分化し、レベルに応じた指導を行うことで、基礎力・応用力を向上させ、学修内容をより定着させる。 【日本語科】 到達レベルに達していない学生は、下位クラスに集中している。担任教師や授業担当講師と授業内容、学生の理解度など会話し改善点を見出したい。 【国際文化科】 進路に合わせた選択科目を取り入れている。更なる日本語力の底上げができるように授業一つ一つの見直しを行っていく。 【国際ホテル科】 演習含む専門科目およびインターンシップの継続により専門性を高める学習を継続する。 【国際ビジネス科】 職業実践専門課程の申請も見据えた、講義主体授業から演習主体授業へ切り替える。	
	② キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発等が実施されているか。	4(3)	国際ホテル科における職業実践専門課程の認定継続、国際ビジネス科における職業実践専門課程認可に向け、より実践的なカリキュラム構築が課題である。	インターンシップなどの実習、企業からの講師を招聘しての演習主体ベースの授業を展開していく。	
	③ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が行われているか。	4(4)	1・2年生 50名、7社に分かれてインターンシップに参加。時期の調整、短期体験型など、ホテル様ごとにスケジュールし、後期よりスタート。 来年度はさらに引率教員の不足が懸念される。	長期休み中の有償インターンシップ等なども視野に入れ、営業活動を展開。 日本語力も求められるため、夏までの日本語力の早期底上げが必要。 1年生時のみ参加にしていける方向も検討していく	
	④ 授業評価の実施・評価体制はあるか。	3(3)	全校で学生からの授業評アンケートによる授業評価を半期ごとに行い、それを各教員にフィードバックをしている。また、各科ごとに適宜学生からアンケートやヒアリングを行い、改善点には対処しているが、非常勤へのフィードバックがまだ不十分である。	非常勤への FB は書面にして、相談という形で実施したいと考えている。	

学校法人 福岡成蹊学園 福岡外語専門学校 2024 年度 自己評価表

	評価項目	評価 (昨年度) ④適切 ③ほぼ適切 ②やや不適切 ①不適切	課 題	今後の改善方策	特記事項
	⑤ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置付けはあるか。	4(4)	TOEIC・英検・EXCEL 検定・WORD 検定・日本語能力試験・G 検定・H 検定等を取得するための学びは体系的に構成されている。	学生の取得率をさらに上げるために、入学当初からの資格取得への意識づけを図る。また、別の資格をカリキュラムに取り入れるなどの検討も必要である。	
	⑥ 職員の能力開発のための研修等が行われているか。	3(4)	外部研修の機会を随時提供し参加を促したが、活用は少数であった。定期的な全員参加型研修は実施されなかった。今後は、定期的な外部委託研修や内部研修会の実施、また非常勤教員をも含めた研修会も充実させていきたい。	次年度は、未来のリーダー育成を狙い「管理者研修」を年間通じて実施予定、個人と組織の成長を図る。 また、全専各・福専各の研修を軸に能力や経験に応じた研修体制の確率も目指したい。	
学修成果	① 就職率・資格取得率の向上が図られているか。	4(4)	効果的と考えられれば、社会人が登壇する『企業連携授業』へ学科を超えて学生の同席をうながした。参加した学生の満足度、意欲、就職が決定した事例もあり、明らかに向上したと考えられる。	社会人登壇者が決定次第、情報を各所に共有し、学生が時間的な余裕をもって参加を検討できるような校内の仕組みづくりを行いたい。	
	② 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の 改善に活用されているか。	3(3)	卒業生とのつながりを担任教員に頼るところが大きい点は、さらに改善が必要と考える。一方で、卒業生からの求人情報提供や採用が決定事例もあり、改善の効果も表れている。	学校と卒業生の接点を増やし、交流の機会を持つ試みを検討したい。	
学生支援	① 学生相談に関する体制は整備されているか。	3(4)	学生相談に応じる体制は明確で問題を早期に解決することができているが、学生数に対し十分な人員配備がとれていないため対応に苦慮することもある。	他部署間の連絡を強化し、今後もタイムリーで適切な支援が行えるよう努力したい。	
	② 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	4(4)	公的制度・各種奨学金・修学支援新制度について、学生への周知を徹底している。学生相談に適時対応し適切なサポートを行っている。	今後も学生への周知、教員と事務局との連携及び情報共有を行い迅速な対応を目指したい。	・文部科学省高等教育修学支援新制度対象校 ・外国人留学生学習奨励金制度対応 ・学校独自の奨学金制度実施
	③ 保護者と適切に連携しているか。	3(3)	日本人学生の保護者には、日頃より教育活動への理解を求め、必要に応じて連絡を取りながら、学生の支援をお願いしているものの、十分な連携が取れているとは言い難い。	引き続き、必要に応じて保護者と情報を共有し、適切なサポートを行えるようにしていく。また、希望者向けに個別相談の場を設け、保護者と連携してサポートしていく体制を整える。	
	④ 卒業生への支援体制はあるか。	3(3)	卒業生管理についての仕組みづくりが不十分と認識している。教職員への個別サポート依頼対応に終始。全体の実態把握と支援体制の構築に課題を残す。	同窓会組織の再立ち上げとデータベースの構築、そして管理担当者の配置により改善を図る。	
	⑤ 高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか。	3(3)	留学生を介して、英語教育を進める高校との連携はある。広義でとらえれば、キャリア教育の一翼を担っているといえなくもないが、体系的なものとはなっていない。	高校側と協業のうえ実施内容について吟味したい。	

学校法人 福岡成蹊学園 福岡外語専門学校 2024 年度 自己評価表

	評価項目	評価（昨年度） ④適切 ③ほぼ適切 ②やや不適切 ①不適切	課 題	今後の改善方策	特記事項
教育環境	① 学内の実習施設・インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか。	3(3)	ホテル講師による直接の実地指導やインターンシップの体験により実力が伸びている。移転後は更サービスに特化した授業を計画する予定。 2024 年度英語科学生を対象に 6 つの短期留学・ボランティア/インターン体験のプログラムを企画。2025 年 3 月、6 か国へ 21 名の学生が留学する予定。海外渡航クラスにおいて留学のための事前研修を 15 回実施。昨年度の改善方策で挙げられた「英語力の低い学生でも参加できるような内容を企画する必要がある」を実現するため、短期留学 6 か国全てのプログラムにおいて英語の必要条件が不要の内容を用意。結果 21 名が参加することに繋がった。	移転前の今出来る事として、実技のみではなく、知識や検定取得も注力したいところ。就職活動の早期化に合わせ、来年度より検定を変更。合格率アップが見込める検定にシフトする。 学生から短期留学の訪問国・種類を増やしてほしいと要望があったため現在それに向けて調整・稼働中。英語を学びながらブラスアルファのスキルや経験ができるような「時代に合った」内容をさらに企画中。	価格を抑えた留学を提案することで 20 名以上の留学希望者を募ることができた。引き続き価格重視の姿勢を変えずプログラムの充実化をさせたい。
	② 防災に対する体制は整備されているか。	4(4)	消防法に定められた防災訓練を確実に計画・実施している。本校の実情に合わせて午前・午後の 2 回に分けた訓練を実施するとともに、所轄の消防署に確実に実施報告を行っている。	命に係わる問題であり、学生を指導する職員の防災意識向上をさらに努めたい。	
学生の受入募集	① 高校・高等専修学校等に対して情報提供等の取組が適切に行われているか。	3(3)	高校を訪問し、資料を参照しながら学校の情報を直接伝えた。	訪問する学校を増やし、広く認知されるよう努める。	
	② 学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は、正確に伝えられているか。	4(4)	【海外留学生募集】 海外からの募集にあたり、学校 HP やエージェントのウェブサイトを通して、当校の特徴や日本語学校との違いである専門士取得に関する情報を提供している。 【国内留学生募集】 専門コース応募の学生にガイダンス・オープンキャンパス・ミニオープンキャンパスで資格取得・就職状況を伝えている。 【日本人募集】 各進学情報サイトに取得可能な資格と前年度卒業生の就職先を掲載している。前年度の実績を積極的にアピールする必要がある。	【海外留学生募集】 今後も同様の募集を継続予定。 【国内留学生募集】 今後、ビジネスコース統合による変化についてうまく学生に伝える工夫が必要になる。 日本語学校の進路指導先生を対象とした学校訪問も複数名で対応し、アピールと情報収集を進める。	今年度は日本語教育機関適正校(クラス 1)の判定をいただき、例年にない認可率でした(97.7% 129/132)。ただし、書類不備があれば、クラス 1 でも不交付となることを認識しました。今後もしっかり書類チェックを励行。
財務	① 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	4(4)	財務基盤の安定には、継続した学生の確保が不可欠で、今後も業界の動向や社会のニーズを迅速に把握し、柔軟に対応しながら学生募集活動を進めていきたい。また、適宜コースの新設やカリキュラムの整備等を行い、選ばれる学校として、盤石な学校運営の実現を目指す。	安定した学校運営を実現するため、各部署が協力し合い、強固な財務基盤を維持していく。	
	② 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	4(4)	財務諸表については、予算対比・前年度対比・社会情勢等を鑑み適正に作成されており妥当なものとなっている。	中長期事業をもとに精度の高い財務予測を行っていく。	
法令	① 法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	4(4)	法令・専修学校設置基準等を遵守し、監督官庁への定	関係行政機関等への早期の報告・相	

学校法人 福岡成蹊学園 福岡外語専門学校 2024 年度 自己評価表

	評価項目	評価（昨年度） ④適切 ③ほぼ適切 ②やや不適切 ①不適切	課 題	今後の改善方策	特記事項
			期報告や届出において適正に行われている。今後も私学振興課及び出入国管理局に適宜適切なアドバイスを求めるとともに連携を深めていく。	談を心がける。	
	② 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。	4(4)	例年実施している自己評価結果に基づき、改善を行っている。すべての施策が十分なものとはいいがたいが、課題を認識、共有し、学校全体としての取り組みとなってきたといえる。	学内では各種会議体にて課題を共有し、学校関係者評価委員会にて外部委員のご意見を改善に活かしたい。	
地域貢献・社会貢献	① 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4(4)	留学生の派遣依頼に対しては積極的に参加奨励するとともに協働的な学びについても配慮する。	社会貢献・地域貢献活動をさらに充実させる。	
	② 学生ボランティア活動を奨励・支援しているか。	3(4)	外部との交流イベントは積極的に奨励しているが、ボランティア活動参加は今年度停滞してしまった。	ボランティア活動を積極的に評価する制度の構築。	
国際交流	① 留学生の受け入れ・派遣について戦略をもって行われているか。	4(4)	さまざまな国や地域から多くの留学生を受け入れるため、年間 30 以上のオンラインセミナーを実施するほかに、新たな教育機関やエージェントと協定を結んでいる。さらに、ウェブサイトや複数のソーシャルメディアを活用することで、国内外のプロモーションにも力をいれている。	近隣の小学校や高校へ積極的に留学生を派遣しており、今後も国際交流の機会をふやしていきたい。	
	② 留学生の学習・生活指導等について学内に適切な体制が整備 されているか。	3(4)	本校は担任制に基づいた学習指導と生活指導を基本としており、教務部と事務局が連携を図りながらの指導を心がけている。出席率指導等に関しては体系的に行うようになっている。	一部指導部分で不十分なところがあるので、改善しつつ学生ファーストでのサポートを常に考えながら形成していく。	